

学位記番号： 修士第37号
氏名（本籍）： 佐藤庸子（佐賀県）
学位の種類： 修士（看護学）
学位授与年月日： 平成15年3月27日
学位論文題目： 3歳児をもつ母親の育児負担感と役割達成感との関連

論文内容要旨

〔研究の目的〕

3歳児をもつ母親の育児負担感と役割達成感・自己効力感との関連を明らかにする。

〔研究方法〕

3歳6か月健康診査を受診するために、大津市役所へ来所した母親を対象に、既存の評定式・諾否式尺度を用いた自記式調査を行った。調査内容は、母親・子どもの特性、育児に対する認知、夫との関連項目であり、測定用具として信頼性、妥当性の得られている育児負担感指標、母親役割達成感尺度、妻役割達成感尺度、一般性セルフエフィカシー尺度を使用した。調査は、対象者一人一人に研究の趣旨を説明し、同意の得られた方へ質問紙を配布した。また、事前に本学の倫理委員会に研究計画書を提出し承認を得た。340人の母親へ質問紙を配布し、337人から回収（回収率99.1%）した。そのうち記入漏れがない290人を分析対象者（分析対象率85.3%）とした。データ分析には、表計算ソフト EXCEL および、統計ソフト SPSS for Windows ver.11.0J を用い、平均値の差の検定、従属変数を育児負担感とし重回帰分析を行った。有意水準はすべて5%とした。調査期間は平成14年7月23日から平成14年9月4日である。

〔結果〕

母親・子どもの特性と育児負担感との関連を明らかにするために平均値の差の検定を行った。結果、育児負担感は、無職者が有職者に比べて高く、体調が悪くなるにつれて高く、3歳児に男児をもつ母親が女児をもつ母親に比べて高く、育てやすさの認知が悪くなるにつれて有意に高くなった。また、育児負担感に及ぼす影響要因を明らかにするために重回帰分析を行った。育児負担感は、母親の年齢が低くなるにつれて高くなり、無職者が有職者に比べて高く、体調が悪く、子どもが通園しており、子どもの育てやすさの認知が悪くなるにつれて高くなった。また、母親役割達成感・自己効力感は育児負担感と独立した負の相関があった。

〔考察〕

これらの結果より、母親の年齢が低いこと、無職者であること、体調が悪いこと、3歳児に男児をもつこと、子どもを育てにくいと認知することが育児負担感を高める要因と考える。また、母親役割達成感・自己効力感が、育児負担感と有意に負の相関があったことから、母親としての役割達成感・自己効力感を高くもつと、育児負担感が低くなると考える。妻役割達成感は育児負担感と、Pearson の相関係数では有意な相関が見られたが、重回帰分析により育児負担感と有意な関連が見られなかったことから、母親の育児に対する肯定感情である母親役割達成感に影響しているのではないかと考えられた。

〔総括〕

3歳児をもつ母親を対象に、育児負担感と役割達成感、自己効力感との関連を明らかにした。育児負担感を高める要因として、無職であること、体調が悪いこと、3歳児に男児をもつこと、子どもを育てにくいと認知すること、母親役割達成感・自己効力感が低いことが明らかになった。今後は、育児負担感を高めると考えられる要因をもつ母親を考慮し、優先的に支援を行っていく必要があると考えられる。